

委託事業実施内容報告書

平成21年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語教室の設置運営】

受託団体名 サポートハウスみんなのいえ

1 事業の趣旨・目的

滋賀県内には約3万人の外国籍住民が生活しています。多くは南米からの人たちで、子どもたちはブラジル人の手による学校や託児所か、地元の保育園・幼稚園・小学校・中学校に行きます。サポートハウスみんなのいえでは、これから地元の保育園・幼稚園・小学校・中学校に行くであろう・あるいはもうすでに行っている子どもたちが、スムーズに学校や地域で生活できるよう、毎日日常生活の中で無理なく楽しく、日本語や日本文化を習得していくことを目的とした。

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	出席者	議題	会議の概要
2009年 7月31日	吉積 尚子 藤田 信吾 鈴木 祥子	状況の分析。	不況に影響がまだまだ続いているが、地道に支援していきたい。
2009年 11月27日	吉積 尚子 藤田 信吾 鈴木 祥子	他団体(行政・幼稚園・小学校等)との連携と、前半の振り返り。	虹の架け橋教室・プレスクール等との連携を密にする。
2010年 3月30日	吉積 尚子 藤田 信吾 鈴木 祥子	今年度の振り返り、及び4月からの日本語教室の運営について。	日本語指導の結果が、クリスマス会に顕著にみられたのが喜ばしい。



【写真】

3 日本語教室の開催について

- ① 日本語教室の名称 サポートハウスみんなのいえ にほんご朝の会・学童
- ② 開催場所 サポートハウスみんなのいえ

- ③ 学習目標 就学前の児童に関しては、朝の会の中で、あいさつや絵本の読み聞かせ・日本の行事などを通じて楽しく日本語の習得を図る。学童に関しては、日本語の中(学校)で1日緊張して過ごしていることを考慮し、カードなどを利用して楽しく日本語の学習をし、家庭では難しい宿題も一緒に行う。
- ④ 使用した教材・リソース 独自に作成
- ⑤ 受講者の募集方法 ブラジル食材店・レストラン等でのちらしの設置、ポスティングなど。
- ⑥ 受講者の総数 26 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)
- ⑦ 開催時間数(回数) 500時間 (全200回)

⑧ 日本語教室の具体的内容

回	開催日時	時間数	参加人数	国籍・母語（人）	教授者・補助者人数	内容
①	2009年5月1日 ～ 2010年3月31日 9:00～9:30	100時間	20人	ブラジル国・ ポルトガル語（20人）	教授者1人 補助者2人	日本語学習
②	2009年5月1日 ～ 2010年3月31日 15:00～17:00	400時間	6人	ブラジル国・ ポルトガル語（5人） フィリピン国・ タガログ語（1人）	教授者1人 補助者2人	日本語学習

⑨ 特徴的な授業風景（2～3回分）

	<p>たなばた みんなで浴衣を着て、ささに短冊をかざりました。</p>		<p>絵本の読み聞かせ 毎日いろいろな絵本を読みます。みんな絵本は大好きで、静かに聞きます。昨年秋頃からは、先生の後に大きな声で繰り返すようになりました。</p>
--	---	---	---

4 事業に対する評価について

① 当初の学習目標の達成状況

就学前児童については、生活の中によくでてくる動詞や形容詞を絵本や音楽・ホワイトボードなど、わかり易く楽しく習得できるように工夫した。また、絵本の読み聞かせでは、静かに話を聞くこともできるようになることも目標とした。

学童は、学校での緊張を解きほぐした明日につながるようカウンセリングすること、学習言葉を習得すること、宿題を終わらせることを目標にしました。

② 学習者の習得状況

目標の通り、楽しみながら生活の中で使う日本語の習得ができた。当初はほとんど日本語が出てこなかった子どもも、日が経つにつれて自然に日本語が出てくるようになった。学童で地元幼稚園に通園していた児童は8月から始めたが、日本語の習得はもちろん、この日本語教室が幼稚園との架け橋的な役目であったり、ブラジル人と日本人両方が関わることでクッション的な役割も担い精神的にもよりどころとなり、よい結果をもたらした。

③ 日本語教室設置運営の効果, 成果

子どもだけでなく、保護者の日本語に対する気持ちも変わってきた。ひとつの日本語教室が与える影響は、学ぶ人だけでなく、その周りの人にまでも波及する。特に子どもの場合は大人より関わる人が多いので、日本語教室の意義は大きいのではないだろうか。

④ 地域の関係者との連携による効果, 成果 等

幼稚園・小学校・プレスクール・虹の架け橋教室等と情報交換・連携が取れるようになった。

⑤ 改善点, 今後の課題について(具体的に記述する。)

- a. 現状 保護者の仕事が安定しないので、中には安定して通うことができない子どもがいる。
- b. 今後の課題 安定・継続して日本語教室を運営、受講者の増加・関わる人の輪が広がることを工夫していきたい。
- c. 今後の活動予定, 展望 より、地元の関係者・学校・保育園・幼稚園と連携を図り、地域で外国籍の子どもの将来を考えていきたい。

③その他参考資料

※写真は、肖像権等に配慮し、差し支えのないものを添付すること。